

# たかねやま

校長 横山 美智代

## ～冬休みならではの、人と人とのかかわりを～

根本小学校では、「人と人とのかかわりを大切に」を学校経営の重点にして、学びを進めてきました。学校以外のかかわりでは、低学年は地域の自然や地域の人とのかかわり、中学年は地域や市内の人とのかかわり、高学年になると地域の人だけでなく岐阜県の外へ出かけ（宿泊研修や修学旅行）多くの人とのかかわりの中で学び、成長してきました。

さて、明日から始まる冬休みは約2週間と短いですが、一年の終わりと始まりを経験する大切な時期です。家族や親せき、地域の人とのかかわりがたくさんあると思います。ぜひその機会に、学校であったことや新年の抱負などを子供たちから聞いてみてください。



5年生：春日井市  
少年自然の家より



6年生：修学旅行  
(東大寺)

## ～根本小学校は、 令和6年度からコミュニティ・スクールになります！～

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度ともいいます）とは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」のことです。多治見市内でもいくつかの学校がコミュニティ・スクールになっています。

コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の皆様の声を積極的に活かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていきます。現在、学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、準備を進めています。ご理解とご協力をよろしくお願いします。



### 親育ちコーナー

#### 母の思い、その深さ① ～野口英世博士と母シカ

親育ち4363たじみプラン 事務局

今秋、福島を訪れ、猪苗代で野口英世博士、会津で白虎隊士の足跡に触れました。

野口博士は1876年、現在の猪苗代町の貧しい農家に生まれました。1歳半のとき、囲炉裏に落ちて、左手の指が全てくっついてしまうほどの大やけどを負います。母シカは、それが自分の不注意のせいだという思いに苦しみながら、わが子のために一生懸命に働きます。周りの人の支えもあって少年は医師となり、やがて渡米して、世界的な細菌学者となります。母は、その後も、片道40kmを歩いて、信心する観音堂に夜籠りを行うなど、遠い異国にいるわが子の身を案じ続けます。59歳のとき、一目会いたいと願って、アメリカの博士にあてて、帰国を願う手紙(\*1)を書きます。貧しさから学校へ通うことができず、文字の読み書きができなかった母が、つたない文字づかいで、「ハヤクキテクタサレ」と繰り返す文面から、深く切ない思いが伝わります。その後、帰国した博士と15年ぶりに再会し、先の観音堂にお礼参りをする写真(\*2)が残っています。ひざまずき、小さな背を丸め、額をお堂の扉にこすりつけて合掌する母は、どんな思いで、どんな言葉で祈りをささげたのでしょうか。

※公益財団法人野口英世記念会より(\*1, 2)の画像をご提供いただきました。QRコードからご覧ください。

(教育推進課 家庭教育担当)

